

ごあいさつ

第二の創業期を迎えて



株式会社フィデア総合研究所
代表取締役社長 **知久 富男**

当社は平成22年7月1日、(株)荘銀総合研究所から(株)フィデア総合研究所に社名変更した。昨年10月1日、荘内銀行と北都銀行の経営統合により、フィデアグループが誕生したことで軌を一にするものである。

振り返ると、当社は主として山形県内の多くの自治体並びに民間企業に株主になっていただき、平成10年4月3日に創立され、「個性豊かな地域社会の実現に貢献する」ことを理念として活動してきた。

今般の社名変更の趣旨は県境を越えた経済の広域化への対応である。すなわち、北都銀行の関係会社が持っていた調査・研究業務を当社が引き継ぐことにより、当社の活動地域をこれまでの山形県に加え、秋田県、さらに宮城県へと拡大しようとするものである。当社にとっては、まさに第二の創業期を迎えたこととなる。

しかしながら、もとより当社創業以来の理念は不変である。これまで以上に地域の発展のために全力を傾注することをお誓い申し上げ、挨拶といたしたい。

出る杭を打つな



フィデアホールディングス株式会社
代表執行役社長 **里村 正治**

フィデアグループの一員として「(株)フィデア総合研究所」と社名変更するに際し、従来にも増して「県境を越えた」調査研究と変化を先取りした鋭い情報発信を大いに期待したい。

平成10年5月発行の「Future SIGHT」創刊号を紐解くと、「21世紀の日本と環日本海経済」の講演内容など12年前とは思えない今でも新鮮な視点で、将来に夢を馳せる記事が載っている。

日本の再生は地方からだ。ここ東北も日本の元氣を取り戻す一翼を担いたい。

是非氣をつけなければならないことがある。出る杭を打たないこと。どういうことかと言えば、一つは、異質な意見、個性あるモノの見方を否定しないこと。これからの5年、10年、地方がどう変わっていくのか分かったものではない。いや、我々の生きる知恵が地方の方向を決めることであろう。二つ目は、若い人の伸びようとする芽を摘まないこと。フィデア総研が、若い人たちのしなやかで、^{した}強たかな活動を引き出すことを期待したい。

フィデア総研に期待するもの



株式会社荘内銀行
代表取締役頭取 **國井 英夫**

平成10年4月、荘内銀行創業120周年記念事業の一つとして、荘銀総研が船出した。

荘銀総研の設立は、当時、町田頭取（現・フィデアHD議長）の肝入りで立ち上げた「庄内価値開発研究会」の提言が伏線となったように思う。私を含む中堅若手行員が事務局として参画し、地域の多くの方々が議論を重ね、それを提言にまとめ上げ、その中で、地域のためのシンクタンクの必要性が認識された。その荘銀総研が、フィデアグループの総合研究所として、さらに大きく広域に展開されることは大変喜ばしい。

我々地方銀行に求められるものに、地元・地域に対する愛着＝郷土愛の発揮がある。少子高齢化・人口減少が続く郷土に対し、自分たちはどんな貢献ができるのか、地域活性化に対する思いの強さ、行員一人一人の気持ちの持ちようが問われている。

フィデア総研に求められているものは、「地域に対する熱い思い」をベースとした、総研と荘内・北都両行との協働である。フィデア総研が、より深く地域に根ざし、地元を愛し、これまで以上に地域活性化のための研究・提言・実践を展開してくれることと期待している。

地域貢献と広域サービス



株式会社北都銀行
代表取締役頭取 **斉藤 永吉**

地域金融機関の使命は、地域と真正面から向き合い、お取引先のサポートを通じ地域経済を維持拡大していくことにある。そのためには経済の広域化への対応と新産業の創出への取り組みが今後重要となる。

フィデアグループでは、県境を越えた企業マッチングや海外進出を支援するためアジアの銀行との業務提携を進めている。また、新産業創出については、豊かな地域資源をさらに価値あるものに転換し、新ビジネスとして確立することが必要である。フィデア総合研究所では、本号でも特集掲載しているが、農業の「6次産業化の方向性」について研究を進め、具体的な提言を行っている。

これまで両行個別に活動してきた総合研究所機能をフィデア総合研究所に融合することで、地域の特性とニーズに適応した情報提供とコンサルティング機能を形成し、より一層実効性の高い広域サービスが可能となる。秋田のお取引先にも積極的に活用していただくとともに、われわれも秋田の無限の可能性を最大限引き出していきたい。